

音楽科学習指導略案

4年2組 33名 指導者 榮留由華

本授業では、以下の検証を行うものである。
表現領域の思考力・判断力・表現力を高める手立てとして、関連付ける「思考スキル」を活用した発問や思考の可視化は、有効であったか。

1 題材 拍の流れによってリズムを感じ取ろう

教材 「いろいろな木の実」中山知子日本語詞／西インド諸島民謡／加賀清孝編曲
「ブラジル」バホーゾ作曲
「言葉でリズムアンサンブル」
「まきばの朝」文部省唱歌／船橋栄吉作曲
「風のメロディー」平野祐香里作詞／鹿谷美緒子作曲
〔共通事項〕 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れ、フレーズ、反復
問いと答え、変化、リピート記号

2 指導計画（総時数8時間）

主な学習活動【評価規準】	〔共通事項〕	時間
<p>いろいろな木の実 ブラジル</p> <p>1 旋律の特徴やリズム伴奏の面白さを感じ取りながら歌う。 【技：4分の4拍子を感じ取りながら伴奏に合わせて歌っている。】</p> <p>2 打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴く。 【関：打楽器の音色や曲想を感じ取りながら、聴く学習に進んで取り組もうとしている。】</p> <p>3 歌と打楽器を合わせて、拍の流れによって演奏する。 【技：友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れによって、リズム伴奏を演奏している。】</p> <p>曲想の違いを感じ取り、それを生かした歌い方や楽譜の組み合わせを工夫したリズム伴奏ができるように、曲想の変化に合わせて表現したり、強弱や速度などの違いによる表現方法を様々に試したりさせることで、表現を工夫する楽しさを味わわせる。</p>	<p>拍の流れ 音色 リズム 旋律</p>	<p>1 1 1 (本時)</p>
<p>言葉でリズムアンサンブル</p> <p>4 言葉のリズムの面白さを感じ取り、リズムアンサンブルをつくる。 【関：拍の流れを感じ取って、リズムをつくる学習に進んで取り組もうとしている。】</p> <p>5 つくったリズムを発表し合ったり、つないで演奏したりする。 【技：拍の流れによって、反復、問いと答え、変化などを生かしたリズムアンサンブルをつくっている。】</p> <p>言葉の持つリズムを聴き取り、拍の流れを感じながらリズムを拡大したり縮小したりして組み合わせることで、反復、問いと答え、変化などを生かしたリズムアンサンブルづくりができるようにする。</p>	<p>拍の流れ リズム 音の重なり 反復、変化 問いと答え</p>	<p>1 1</p>
<p>まきばの朝</p> <p>6 情景を想像し、旋律の音の動きを感じ取りながら歌う。 【創：歌詞の表す情景の移り変わりを思い浮かべながら、歌詞の内容にふさわしい歌い方になるように工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。】</p> <p>自分の思いや意図が表現できるように、繰り返し歌ったり、友達の表現を互いに聴き合ってそのよさを発見したり、音楽の流れを体全体で受け止めて生き生きと歌ったり、体の動きを伴った活動をししたりするなど、様々な活動をする。</p>	<p>拍の流れ 旋律 フレーズ</p>	<p>1</p>
<p>風のメロディー</p> <p>7 歌詞の表す情景と8分の6拍子のもつ曲想とを結びつけ、拍の流れを感じ取る。 【関：拍の流れによって体を動かしたり、拍子を感じ取ったりしながら歌おうとしている。】</p> <p>8 拍の流れを感じながら、強弱記号を生かして工夫して歌う。 【技：拍の流れにのり、曲想にふさわしい表現を工夫して歌っている。】</p> <p>リズムやフレーズを聴き取り、8分の6拍子の拍子感や、強弱の変化が生み出す曲の山を感じ取ることで、曲想にふさわしい表現を工夫できるようにする。</p>	<p>拍の流れ 旋律 強弱 フレーズ</p>	<p>1 1</p>

3 本時（3／8）

- (1) 目標
歌と打楽器を合わせて、拍の流れによって演奏することができるようにする。
- (2) 評価規準
友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れによって、リズム伴奏を演奏している。
【音楽表現の技能】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、日頃から行っているリズムリレーをすることで、4分の4拍子の流れを想起させるとともに、様々なリズムパターンを遊びの中で体感できるようにする。「見通す」過程では、学習の進め方について話し合うとともに、最後に全員で合唱奏をしていくことを確認することで、見通しをもって意欲的に活動できるようにさせる。

「追究する」過程では、子どもたちが思いや意図をもって、楽器やリズムを選択することができるようにするために、グループ活動を取り入れ、学び合いの場を設定する。また、グループで話し合った工夫を明確にするために、思いや意図を「見える図」に書き込んで、可視化させる。「磨き合う」過程では、それぞれのグループの工夫について全員で共有させるために、演奏を発表した後に、工夫した点について「見える図」を見ながら話し合わせる。「振り返る」過程では、めあてに沿って学習を振り返るとともに、自分たちで音楽を作り上げるよさや達成感を味わわせたい。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価	
つかむ	7	1 4分の4拍子の流れにのって、リズムリレーをする。(音タイム)	○ 「音タイム」でリズムリレーをすることで、4分の4拍子の流れにのって、様々なリズムパターンがあることに気付かせる。 ○ 「いろんな木の実」に合うリズムに気づかせるために、リズムカードを掲示して、リズム打ちしながら歌わせる。 ○ 学習の見通しと課題を明確にもたせるために、グループ活動の進め方を確認することで、活動の見通しをもたせるようにする。 ○ グループで話し合った工夫を明確にするために、思いや意図を書き込んで、「見える化」する。
		2 「いろんな木の実」を歌ったり、拍の流れにのって手拍子をうったりする。	
		3 学習問題と追究方法を確認する。	
見通す	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「いろんな木の実」の歌には、どんな楽器やリズムが合うだろうか。</div> 4 学習の進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、どんなリズムが合うか考えたいな。 ・ 次に、だれがどこを演奏するか話し合いたいな。 	※ 友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れにのって、リズム伴奏を演奏している。(演奏聴取) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○ 積極的にリズム伴奏を演奏している子どもには、さらに、リズム伴奏をする箇所を工夫するよう助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、教師と一緒に練習したり、グループ内での教え合いの場を設けたりするようにする。 </div>
追究する	20	5 リズムや楽器の組合せをグループで工夫して練習する。 関連付ける <ul style="list-style-type: none"> ・ はずんだ感じにしたいから、このリズムにしよう。 ・ 楽しい曲にしたいから、途中で楽器を変えてみよう。 ・ 曲の感じが前半と後半で変わるからリズムも変えたほうがいいね。 	
磨き合う	10	6 グループで練習したことを発表して聴き合い、気付いたことを話し合う。(ききタイム) <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんのリズムをまねして打ってみたいな。 ・ みんな、歌いながらリズムにのって演奏しているな。 	
振り返る	5	7 歌とグループのリズム伴奏を合わせて全員で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなリズムがあって、面白いな。 ・ みんなで合わせると、楽しいな。 ・ 歌と楽器を合わせると、音楽がもっと明るくなるよ。 8 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">リズムや楽器を工夫して歌と合わせると、もっと明るくて楽しい感じになる。</div>	○ それぞれのグループの工夫について全員で共有するために、演奏を発表した後に、工夫した点について話し合う。 ○ 学習のめあてをもとに学習を振り返るとともに、本時の感想を述べさせ、自分たちで音楽を作り上げたことへの称賛を行い、達成感を味わわせる。